

科目名	成人看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		講義		1	1年 1学期	
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成人看護学の理念を基礎として、成人期の対象の特性及び多様な健康問題について理解を深める。成人期の生活に直結した生活習慣・職業・ストレス等に関連した健康問題を取り上げ、現代社会や現代人のライフサイクルの特徴と照らし合わせて検討する。また、成人期における健康の破綻による対象や家族への影響、回復に向けての看護者の役割と、その方法の基本を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の定義と成人の特徴、成長発達の特徴について理解できる。 2. 成人の生活に焦点を当てて、成人期の健康問題が理解できる。 3. 成人への看護に有用な概念について理解できる。 4. 成人期の危機と適応、自己効力に関する理論を学び、その介入方法が理解できる。 5. 成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル）を学び、事例の学習看護のグループワークを行い、理解を深め、学びを発表できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の定義、成人の各期における成長発達の特徴 2. 成人の身体機能の特徴と看護 3. 成人の生活とアセスメントガイド 4. 主要な健康観と個人の健康観 5. 成人の生活習慣・職業に関連する健康障害 6. 成人の生活ストレス・セクシュアリティに関連する健康障害 7. 成人の余暇活動・更年期に関連する健康障害 8. 成人への看護に有用な概念（痛みの軌跡、セルフケア、ストレス） 9. 成人の危機と適応理論と介入方法 10. 自己効力理論、ヘルスプロモーション 11. 成人期看護の特徴、成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル） 12. } 2型糖尿病の成人患者の学習と看護についてグループワーク 13. } 14. グループワーク発表と振り返り 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	成人看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		2	1年 2学期	
区分	専門分野 II						
担当者	千代田茜	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	佐々木寿	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	村上ゆかり	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	村上かおり	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間

授業の目的・ねらい

周手術期にある成人の看護では、手術を受ける患者の看護を取り上げ、周手術期の正常な経過を理解し健康回復への援助方法について学ぶ。

呼吸器疾患を持つ患者の病態に基づいた看護活動の展開や、検査や治療・処置を受ける患者への援助を学ぶ。

特に呼吸器疾患のもつ患者の症状は心身に与える影響も大きく、身体面その他精神面も踏まえた総合的な看護を学ぶ。

消化器系の機能障害のある患者の看護では、消化・吸収機能と栄養代謝機能について特徴的な症状に対する看護のあり方、消化器系特有の検査に対する看護のあり方について理解する。

また、健康を障害された対象に対する看護過程の展開について学ぶ。

成人看護方法論では機能障害別に健康を障害された対象に対する看護について学ぶ。

循環器疾患患者の看護では、代表的疾患として虚血性心疾患・心不全を取り上げ、健康回復へ向かうための看護について理解する。また、心臓リハビリテーションとして、段階に応じた関わり方について学ぶ。

学生の到達目標

1. 周手術期の対象がたどる一般的な経過と各期の特徴について理解できる。
2. 術後合併症の発生機序と予防にむけた看護について理解できる。
3. 主な疾患により手術を受ける患者の術前から術後における看護について理解できる。
4. 呼吸器機能の観察の技術、呼吸器症状がもたらす影響について説明できる。
5. 主な呼吸器疾患患者の検査・治療とその看護について理解できる。
6. 消化器系の観察の技術・消化器症状がもたらす影響について説明できる。
7. 主な消化器疾患患者への検査・治療とその看護について理解できる。
8. 循環器機能の観察の技術・循環器症状がもたらす影響について説明できる。
9. 主な循環器疾患患者への検査・治療とその看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<千代田茜>

1. 周手術期にある成人の看護の特徴と課題
2. 周手術期の看護（術前後）
3. 術後合併症の予防
4. 呼吸器系の疾患により手術を受ける患者の看護
5. } 消化器系の疾患により手術を受ける患者の看護
6. }
7. 内分泌系の疾患により手術を受ける患者の看護
乳腺の疾患により手術を受ける患者の看護
8. 筆記試験、まとめ

<佐々木寿>

1. 呼吸器疾患の動向
2. 呼吸器疾患の症状と看護
3. 在宅酸素療法、人工呼吸器の看護、胸腔ドレナージ管理
4. 呼吸器疾患の手術療法と看護
5. 肺炎、結核、気管支喘息患者の看護
6. 慢性呼吸不全患者の看護
7. まとめ
8. 筆記試験・まとめ

<村上ゆかり>

1. 患者の身体的、心理・社会的特徴と看護の役割
2. } 消化・吸収機能障害のある患者の症状と看護
3. }
4. 消化・吸収機能検査・治療を受ける患者の看護
5. 食道疾患、胃・十二指腸潰瘍の患者への看護
6. 潰瘍性大腸炎・クローン病・イレウスの患者への看護
7. 肝臓疾患・膵臓疾患の患者への看護
8. 筆記試験・まとめ

<村上かおり>

1. 循環機能の検査と観察
2. 虚血性心疾患患者への看護
3. ペースメーカー装着時の援助
4. 心臓リハビリテーション
5. 循環器疾患の手術前後の看護
6. 心不全患者の看護
7. 心臓弁膜症の患者の看護
8. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院	2022	
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護各論	医学書院	2022	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [2]	呼吸器	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [5]	消化器	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [3]	循環器	医学書院	2022

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		講義・演習		2	1年 2学期	
担当者	和田聖子	資格	看護師	実務経験	○有・無	時間	11 / 62時間
担当者	西内美智子	資格	看護師	実務経験	○有・無	時間	7 / 62時間
担当者	馬越千恵	資格	看護師	実務経験	○有・無	時間	9 / 62時間
担当者	村上奈津	資格	看護師	実務経験	○有・無	時間	5 / 62時間
担当者	大西卓也	資格	看護師	実務経験	○有・無	時間	15 / 62時間
担当者	長島圭	資格	看護師	実務経験	○有・無	時間	15 / 62時間

授業の目的・ねらい

血液・造血器疾患患者の看護では白血病・悪性リンパ腫、内分泌・代謝疾患患者の看護ではバセドウ病・糖尿病・高脂血症・肥満症・痛風・高尿酸血症、アレルギー・膠原病疾患患者の看護ではアトピー性皮膚炎・SLE、SCC、RA等を取り上げ、健康回復へ向かうための看護について学ぶ。

透析治療や泌尿器科疾患治療を受ける患者の看護を学び、合併症の予防や副作用への対応や患者の不安、セルフケアへの援助など看護過程を通じて学習する

高齢社会、疾患の発症状況をふまえ、脳・神経疾患領域の看護にかかわってくる問題や課題を学ぶ。

脳・神経疾患に罹患した場合にたどる経過とその特徴や問題点を学び、経過に対応した看護を学ぶ。

脳神経疾患患者の看護では、特徴的な症状に対する看護のあり方、脳神経疾患特有の内科的治療・外科的治療に分けて、健康回復への援助方法について学ぶ

運動器疾患はその人に及ぼす影響が大きく、その治療は長期にわたることも多くまた患者自ら参画していくことも求められてくる。そこで、運動器疾患患者の看護では、特に手術を受ける患者の看護を取り上げ、術後の経過を理解し健康回復への援助方法について学ぶ。

学生の到達目標

1. 免疫・血液・造血器、膠原病、内分泌・代謝機能の観察の技術と、それらの機能の障害がもたらす影響について説明できる。
2. 主な免疫・血液・造血器、膠原病、内分泌・代謝疾患患者への検査・治療とその看護について理解できる。
3. 感染症の定義、種類、症状等を理解し、感染経路別予防策について説明できる。
4. 腎機能・排尿機能障害のある患者の看護の原則を理解し、慢性腎不全の患者への看護過程が展開できる。
5. 脳・神経機能の観察の技術、脳・神経障害がもたらす影響と問題点について説明できる。
6. 主な脳・神経系の疾患をもつ患者への検査、治療、看護について理解できる。
7. 運動機能の観察の技術、運動機能障害がもたらす影響と問題点について説明できる。
8. 主な運動機能の疾患をもつ患者への検査・治療看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<和田聖子>

1. } アレルギー疾患患者の看護
2. }
3. } 膠原病疾患患者の看護
4. }
5. 血液造血器疾患患者の看護、免疫機能に障害のある患者の看護
6. 筆記試験・まとめ

<西内美智子>

1. 内分泌代謝機能の観察とアセスメント
2. } 内分泌機能障害のある患者の看護
3. } グループワーク、アセスメントと看護のまとめ
4. 筆記試験・まとめ

<馬越千恵>

1. 感染症の観察とアセスメント
2. } 感染経路別予防策
3. } スタンダードプリコーション
4. スタンダードプリコーション演習
5. 筆記試験・まとめ

<村上奈津>

1. } 腎機能・排尿機能障害の患者の看護
2. } 慢性腎不全の患者への看護のグループワーク
3. 筆記試験・まとめ

<大西卓也>

1. 脳・神経機能障害の観察とアセスメント
2. } 脳・神経機能障害で生じる症状と看護
3. } 脳・神経機能障害で生じる症状と看護
4. 頭蓋内圧亢進症状の程度原因とその看護
5. 薬物療法をうける患者の看護
6. 脳血管障害患者の看護
7. 筋ジストロフィー、髄膜炎の患者の看護
8. 筆記試験・まとめ

<長島 圭>

1. 運動機能障害の観察とアセスメント
2. 運動機能障害の症状と看護
3. 検査・診断をうける患者の看護
4. } 運動器疾患の手術をうける患者の看護
5. } 運動器疾患の手術をうける患者の看護
6. } 運動器の主な疾患をもつ患者の看護
7. } 運動器の主な疾患をもつ患者の看護
8. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[4] 血液・造血器疾患患者の看護	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[6] 内分泌・代謝疾患患者の看護	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[11] アレルギー／膠原病／感染症	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学	[2] 基礎看護技術 I	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[8] 腎・泌尿器科	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[7] 脳・神経	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	[10] 運動器	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学3	基礎看護技術 I	医学書院	2023

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	老年看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		講義		1	1年 2学期	
担当者	阿部 愛	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>老年期にある対象と家族および支える人々を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象と家族の特徴、および支える人々を理解できる。 2. 加齢に伴う変化と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の視点からの老年者の理解 老年期の発達と成熟 2. 高齢者の多様性 加齢に伴う変化 3. 高齢者にとっての健康 高齢者と家族 4. 高齢者と社会システム 高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護 5. 高齢者とQOL 老年看護活動の特性 6. 老年看護における倫理的課題 老年看護に求められるものとは 7. 高齢者の生理的特徴 高齢者のアセスメント 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2022 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2022</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	老年看護方法論 I	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 2学期
区分	専門分野 II						
担当者	玉井京子	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	秋山真由美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

高齢者の疾患の特徴を理解し、主要な症候と起こりやすい問題について学ぶ。
検査・治療をうける高齢者への看護を理解する。

学生の到達目標

1. 高齢者の疾患の特徴、主要な症候と起こりやすい問題について理解を深める。
2. 検査・治療をうける高齢者への看護を理解できる。

授業概要（授業計画）

<玉井京子>

1. 老年症候群—主要な症候と起こりやすい問題
 - 1) おもに急性疾患に付随する症候
意識障害、せん妄、熱中症、脱水症、発熱
 - 2) おもに慢性期疾患に付随する症候
腰背部、やせ、手足のしびれ、浮腫、睡眠障害、抑うつ
 - 3) おもにADL低下に合併する症候
転倒・骨折、排尿障害、便秘、嚥下障害、入浴事故
4. 高齢者の疾患の特徴
 - 1) 認知症
 - 2) 精神・神経系疾患
5. 3) 循環器系の疾患
 - 4) 呼吸器系の疾患
 - 5) 消化器系の疾患
6. 6) 内分泌・代謝系の疾患
 - 7) 膠原病
 - 8) 血液疾患
 - 9) 腎・泌尿器系の疾患
7. 10) 運動器の疾患
 - 11) 皮膚、感覚器、歯・口腔の疾患
 - 12) 感染症
8. 筆記試験、まとめ

<秋山真由美>

1. 検査・治療をうける高齢者への看護ケア
2. 薬物療法と看護ケア
3. 栄養ケア・マネジメント
4. 薬物療法と看護ケア
5. 手術療法と看護ケア
6. リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護
7. まとめ
8. 筆記試験

系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態、疾患論 医学書院 2022
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2022

参考書
プリント

成績評価方法
出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	老年看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 2学期	
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間	
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>高齢者の生活機能を整える看護を理解する。 終末期にある高齢者と家族の看護を理解する。 老年期の基礎的な疾患の事例を通して看護過程の展開の技術について学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能を整える看護を理解できる。 2. 終末期にある高齢者と家族の看護を理解できる。 3. 老年期の基礎的な疾患の紙面事例を使って看護過程の展開ができる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><眞鍋誠子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能を整える看護の展開 日常生活を支える基本動作と看護ケア ・生活の基本となる日常生活動作 ・転倒 ・廃用症候群 2. 生活の基本となる日常生活動作 - 食事と看護ケア 3. 生活の基本となる生活日常動作 - 排泄と看護ケア、清潔と看護ケア 4. 生活の基本となる日常生活動作 - 生活リズムと看護ケア コミュニケーションと看護ケア 5. 認知機能の障害に対する看護 - 認知症 6. 終末期にある高齢者と家族の看護、タクティールケア 7. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 8. 筆記試験、まとめ <p><山下逸美></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例を用いた看護過程の展開 - 認知症、大腿骨頸部骨折患者 2. 情報の整理、ニーズの充足状態 3. アセスメント 4. 関連図作成、問題の明確化 5. 看護計画立案 6. 短期目標達成に向けた、ある1日の行動計画案 7. 評価・考察の方法、看護計画の修正 8. 看護過程のまとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2022 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 2022</p>								
<p>参考書</p> <p>巻田ふき・矢部弘子編集 老年者の生活と看護 中央法規 1996 鈴木みづえ他 高齢者の転倒ケア—予測・予防と自立支援のすすめ方 医学書院 2001 五島シズ・水野陽子 痴呆性老人の看護 医学書院 1998 千田徳子監修 臨床老年看護論 生きている現場 日本看護協会出版会 2001 奥野茂代編集 老年看護技術 - アセスメントのポイントとその根拠 - ヌーヴェルヒロカワ 2003</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	小児看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 1学期	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	阿部 喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>少子高齢社会に伴い、子どもを取り巻く社会環境は急激に変化している。その中で、子ども達はどのような大人への成熟過程を歩んでいるのか、子どもの成長・発達、及び社会や周囲の状況を理解するなかで学ぶ。</p> <p>子どもの発達段階に応じた世話と健康増進のための子どもと家族への看護を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象と目的について理解できる。 2. 現代の子どもを取り巻く社会環境（母子保健指標も含む）が理解できる。 3. 小児看護を実践する中で、留意することの権利を理解することができる。 4. 成長・発達の一般的原則や影響する要因について理解できる。 5. 乳児期から思春期の子どもの身体的成長・機能的発達・心理社会的発達について理解できる。 6. 子どもに適した身体発育の評価・心理社会的発達の評価の必要性を理解し、評価方法を選択できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の対象 2) 小児医療、小児看護の変遷 2. 3) 子どもの人権と看護 <ol style="list-style-type: none"> 4) 小児看護に携わる看護師の役割 3. 子どもの成長と発達について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長・発達の原則 4. 2) 小児各期の成長・発達 <ol style="list-style-type: none"> 3) 成長・発達の評価 5. 小児各期に応じた養育と健康増進のための看護を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新生児・乳児 6. 2) 幼児・学童 7. 3) 思春期 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>小児看護学 「小児の発達と看護」 メディカ出版 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>厚生統計協会編集 国民衛生の動向</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	小児看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 2・3学期	
区分	専門分野 II						
担当者	阿部 喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>子どもは発達していく存在であり、年齢や健康レベルにかかわらず権利を行使することが主体である。一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していくには、科学的な根拠に裏付けされた看護実践能力を習得する必要がある。</p> <p>さまざまな状況にある子どもと家族に対し、常に最善の利益を守るための行動が重要であることを学び、プレパレーションの重要性の理解につなげる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児や家族に援助を実施するうえで、常に最善の利益を守るための行動が重要であることが理解できる。 2. それぞれの小児看護技術に必要な、基本的な知識を身につけることができる。 3. 小児看護におけるプレパレーションの重要性、具体的な方法について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査や処置を受ける子どもと家族 2. 発達に応じたプレパレーション 3. バイタルサインの測定 <ol style="list-style-type: none"> 4) 身体計測 5) フィジカルアセスメント 4. 6) 採血 <ol style="list-style-type: none"> 7) 採尿 5. 8) 骨髄穿刺 <ol style="list-style-type: none"> 9) 腰椎穿刺 6. 10) 与薬 <ol style="list-style-type: none"> 11) 注射 7. 12) 輸液療法 8. 9. 10. } 紙上事例による看護過程の展開 11. } 1) 気管支喘息患児の看護 12. } 13. 14. 15. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護学 「小児看護技術」メディカ出版 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>随時、紹介する。</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記グループワーク、試験などで評価する。</p>							

科目名	小児看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 2学期
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	村上至孝	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 33時間
担当者	渡部香	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	9 / 33時間
担当者	村上亜弥	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	9 / 33時間

授業の目的・ねらい

小児の疾病や障害について、病態生理を正しく理解し、小児に特徴的な症状と反応及び、診断法と治療について学ぶ。

幅広い小児の疾患については、機能障害別に代表的な疾患を取り上げ学ぶ。

小児の疾病や障害の病態生理、症状と反応、診断法と治療についての理解をもとに、健康を障害された子どもとその家族への看護について障害別に学ぶ。

幅広い小児の看護については、機能障害別に代表的な疾患に対する看護について学ぶ。

学生の到達目標

1. 小児の主な疾患・障害の病態、検査・治療とその看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

< 村上至孝 >

1. 染色体異常・胎内環境 により発生する先天異常と看護
2. 新生児の疾患
3. 代謝性疾患
4. 内分泌疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患
5. 免疫疾患
6. 感染症
7. 呼吸器疾患
8. 循環器疾患
9. 消化器疾患
10. 血液・造血器疾患
11. 悪性新生物
12. 腎・泌尿器および生殖器疾患
13. 神経疾患（けいれん）
14. 吃音
15. 筆記試験、まとめ

< 渡部香 >

1. 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患をもった小児の看護
呼吸器疾患をもった小児の看護
2. 消化器疾患をもった小児の看護
血液・造血器疾患をもった小児の看護
3. 悪性新生物のおもな疾患をもった小児の看護
腎・泌尿器系疾患をもった小児の看護
4. 眼疾患をもった小児の看護
耳鼻咽喉疾患をもった小児の看護
子どもの虐待と看護
5. 筆記試験、まとめ

< 村上亜弥 >

1. 染色体異常、胎内環境により発生する先天異常疾患をもった小児の看護
新生児の看護
2. 感染症疾患をもった小児の看護
内分泌疾患児をもった小児の看護
3. 代謝疾患をもった小児の看護
循環器疾患をもった小児の看護
4. 神経疾患をもった小児の看護
運動器疾患をもった小児の看護
皮膚疾患をもった小児の看護
5. 筆記試験、まとめ

教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院 2022

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	母性看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		講義		1	1年 2学期	
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>母性の特性を生理学的、病理学的に理解し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病について学ぶ。</p> <p>母性の健康問題に関連する諸問題、それら諸問題から母性を守る医療・保険制度の概要について学ぶ。</p> <p>母性各期にある対象の特性について理解を深め、母性各期の精神面・生理面の特徴とその保健について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性の種々な定義を理解し、母性とは何か自分の考えをもつことができる。 母性各期にある対象を女性の一生から特徴をとらえ、健康と看護について理解できる。 母性各期における諸問題を理解し、グループワークで学びをまとめることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性とは 女性の一生について セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ 母子保健統計、歴史的変遷と現状 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、家族 女性のライフステージ各期における健康と看護 母性看護における問題と看護のグループワーク 性感染症と予防、家族計画 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>吉沢豊予子編著 女性の看護学 母性の健康から女性の健康へ メヂカルフレンド社 氏家幸子監 母子看護学原論 廣川書店 村本淳子・森明子編著 母性看護学概論 医歯薬出版株式会社 国民衛生の動向2021/2022年 財団法人 厚生統計協会</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	母性看護方法論 I	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	1年 2学期
区分	専門分野 II						
担当者	吉良佳世	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 33時間
担当者	谷村陽子	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	9 / 33時間
担当者	曾我朋代	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	9 / 33時間

授業の目的・ねらい

現在、医療の高齢化と進歩に伴い、母性看護学は出生前から生じる遺伝及び不妊の問題、出生前診断や倫理的問題があげられる。このためリプロダクティブケアについて学びを深め、女性・母親・胎児・子ども、そしてパートナーの男性を含んでとらえる。

また、妊娠・分娩・産褥及び新生児の整理、正常と異常とそれらの治療について学ぶ。妊娠期の妊婦に生じる身体的心理、社会的変化を理解することは母性看護の基本となる。その上で妊娠および胎児のアセスメントと看護について学ぶ。

分娩期と産褥期における経過と変化を理解し、アセスメントと看護について学ぶ。

新生児の看護では、生理的・身体的特徴を理解し、新生児の健康状態のアセスメントと看護を学ぶ。

学生の到達目標

1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて遺伝面・不妊治療からとらえ、それらの問題と看護について理解できる。
2. 妊娠、分娩、産褥及び新生児の生理について学び、経過の正常・異常がわかる。
3. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理と治療について理解できる。
4. 妊娠期にある妊婦の生理的、心理的变化とその特徴及び、対象とその家族に対する看護を理解できる。
5. 妊娠の経過と胎児の発育とその生理についてアセスメントでき、看護について理解できる。
6. 分娩期の経過と産褥の身体的、心理的变化についてアセスメントでき、看護について理解できる。
7. 産褥期の経過と褥婦の身体的、心理的、社会的変化についてアセスメントでき、看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

<吉良佳世>

1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア
2. 妊娠・不妊治療
3. 妊娠の異常と治療
4. 分娩の異常と治療
5. 産褥の異常と治療
6. 新生児の異常と治療
7. 女性生殖器疾患と治療
8. 筆記試験・まとめ

<谷村陽子>

1. 妊娠期の生理・心理
2. 胎児の発育とその生理
3. 分娩期における看護
4. 異常妊娠・異常分娩時の看護
5. 筆記試験・まとめ

<曾我朋代>

1. 新生児の生理とアセスメントとグループワーク
2. 新生児の看護とグループワーク
3. 産褥経過とアセスメントとグループワーク
4. 産褥期の看護とグループワーク
5. 筆記試験・まとめ

教科書

系統看護学講座	専門分野	母性看護学 [2]	母性看護学各論	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	母性看護学 [2]	母性看護学各論	医学書院	2022

参考書

石村由利子編 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 2022

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	母性看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野Ⅱ		講義・演習			1	1年 2学期
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>対象者を支える援助のあり方を学び、基本的な援助技術を習得する。 母性看護の対象者に対する対象把握について、情報収集・アセスメント技術の特性を理解できる。 母性看護における看護展開を、ウェルネス看護診断の考え方をを用いて紙面上での事例展開を行う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の対象者である妊婦、褥婦の情報収集、アセスメントができる。 新生児の沐浴と計測が安全に配慮して、正確に実施できる。 褥婦と新生児のアセスメントと看護計画の立案、実施の評価ができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><古浦和香></p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦の日常生活に関するアセスメント（グループワーク発表） 出産準備教育（イメージリー）、記録の書き方 標準体重と肥満度の計算 沐浴、新生児の計測の原則・方法・注意点 沐浴（学内実習） 新生児の計測 筆記試験、まとめ <p><長野恵美></p> <p>事例による看護過程の展開（正期産で分娩した褥婦正期産で出生した新生児）</p> <ol style="list-style-type: none"> データベースⅠー（1）（2）の意味と記入方法について アセスメント（ウェルネス看護診断）の方法について 看護計画（褥婦）（新生児） 看護過程の展開 看護計画の実施、評価（褥婦） 看護過程の展開 看護計画の実施、評価（新生児） 看護過程の展開 看護計画の実施、評価（新生児） 看護過程の展開 看護計画の実施、評価（新生児） 看護過程の展開 看護計画の実施、評価（新生児） 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 2022 看護過程：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>石村由利子編 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 2022</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	精神看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 2学期	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神看護学の基本的な考え方について理解する。 精神看護の対象を全ライフサイクルとし、人の精神的成長発達のプロセスや社会的状況の中で生じる危機について学ぶ。 精神の健康と精神看護の役割について理解するとともに、精神保健では健康な生活の保持増進に必要な精神保健活動の概要を学ぶ。 人権擁護、精神医療・看護の歴史の変遷から、精神保健福祉についての理解を深め、精神科看護に求められる倫理的諸問題を理解する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の基本的な考え方について理解できる。 2. 精神看護の対象を全ライフサイクルにとらえ、人の精神的成長発達のプロセスや社会的状況の中で生じる危機について学ぶ。 3. 精神の健康と精神看護の役割について理解するとともに、精神保健では健康な生活の保持増進に必要な精神保健活動の概要を理解できる。 4. 人権擁護、精神医療・看護の歴史の変遷を学び、精神保健福祉についての理解を深め、精神科看護に求められる倫理的諸問題を考えることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学を学ぶ意義 2. 心の健康（精神の健康）とは 脳構造と認知機能 精神の構造と働き（精神力動論、対人関係論、集団力動論） 3. 精神の発達に関する考え方 ライフサイクルと精神保健（発達理論） 4. 家族と精神の健康 5. 危機理論 ストレスと反応、および対処行動 6. 精神保健医療と歴史の変遷 7. 精神科看護に求められる倫理 8. 筆記試験、まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	精神看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期													
			講義		1	1年 1学期													
区分	専門分野 II																		
担当者	出山義洋	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	30時間												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神障害の多様性を状態像でとらえ、経過に基づく診断、治療とその副作用について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要精神疾患について、病態、診断、検査及び治療について学ぶ。 2. 精神障害を有する患者の症状・状態・予後を理解できる。 3. 生活の場における主な精神障害者の保健福祉と、地域精神医療資源について理解できる。 																			
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要精神疾患について、病態、診断、検査及び治療を理解できる。 2. 精神障害を有する患者の症状・状態・予後を理解できる。 3. 生活の場における精神障害者の保健医療福祉と、地域精神医療資源について理解できる。 																			
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 暮らしの場と精神（心）の健康、現代社会と精神（心）の健康 2. } 3. } 精神障害を持つ人の抱える症状と診断のための検査 4. } 診察・障害の診断基準、障害の分類、意識障害、感覚と知覚 5. } 意識障害、自我意識の障害、睡眠障害 6. } DVD『クワイエットルームへようこそ』 7. } 統合失調症、双極性障害、PTSD、摂食障害、パーソナリティ障害 8. } 9. } 電気ショック療法、リハビリテーション看護 10. } 11. } 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 12. } 13. } 精神障害を持つ人を守る法・制度 14. } 15. 筆記試験・まとめ 																			
<p>教科書</p> <table> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>精神看護学 [1]</td> <td>精神看護の基礎</td> <td>医学書院</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>精神看護学 [2]</td> <td>精神看護の展開</td> <td>医学書院</td> <td>2022</td> </tr> </table>								系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [1]	精神看護の基礎	医学書院	2022	系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [2]	精神看護の展開	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [1]	精神看護の基礎	医学書院	2022														
系統看護学講座	専門分野	精神看護学 [2]	精神看護の展開	医学書院	2022														
<p>参考書</p>																			
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>																			

科目名	精神看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
区分	専門分野Ⅱ		講義・演習			1	1年 3学期
担当者	出山義洋	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神看護学概論で学んだ、精神の健康と成長発達の過程や社会的状況の中で生じる危機に関する理解、及び精神看護方法論Ⅰでの主要精神疾患についての理解をもとに、精神を障害された個人と家族を理解し、対象に応じた看護の提供について学ぶ。</p> <p>精神の健康と保持・増進し、人々の日常生活を整えるための援助技術、および精神症状や精神状態によって影響された生活を整えるための看護、個人とその家族、状況に応じた援助方法</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神を障害された個人と家族を理解し、対象に応じた看護の提供のしかたを理解できる。 2. 精神症状や精神状態によって影響された患者の生活を整えるための看護を理解できる。 3. 紙面事例を通して精神科看護過程の展開方法を理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><出山義洋></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療・看護の対象者 精神（心）を病むということ 2. 精神障害をもつ人と「患者－看護師」関係の構築 3. 精神障害をもつ人への看護援助の展開 4. 患者による自己管理 5. 精神障害をもつ人への看護 6. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 7. 我が国の精神看護の発展 8. 筆記試験、まとめ <p><山下逸美></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オレム・アンダーウッドセルフケア理論の概要（理論と枠組み） 2. セルフケアレベルと看護の視点、統合失調症患者の看護の視点 3. 情報収集のしかた、観察とアセスメントの視点、計画立案・評価のしかた 4. } 5. } 6. } 7. } 8. 看護過程展開のまとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 2022</p> <p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>竹尾恵子 超入門事例で学ぶ看護理論 学研</p> <p>岩瀬信夫他 ケーススタディ精神看護診断ガイド 廣川書店 2002</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	成人看護学実習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	2年 2学期	
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間	
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間		
担当者	井上末美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>急性期にある対象を理解し、苦痛の緩和、合併症の予測ができ、生命の維持と回復への援助ができる。</p> <p>回復期にある対象を理解し、機能障害の程度に応じた日常生活援助やセルフケア能力を高める援助ができる</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期・回復期・慢性期にある対象を理解できる。 2. 対象の持つ健康障害を理解し、看護過程が展開できる。 3. 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 4. 事実や理論に基づきながら、思考・判断する。 5. 何にでも疑問をもち、自らそれを解決する姿勢を身につける。 6. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 7. 生命の維持を優先にした治療の中で、対象の人間性の尊厳を維持することの重要性を学ぶ。 8. 看護学生としての責任と義務を果たす行動がとれる。 9. 自己の看護観を表現する。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 愛媛県立今治病院（5東・3東 の各病棟）</p> <p>実習期間 1年次 2学期 12日間 実習期間中に実習施設でオリエンテーションを受ける</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前、対象に関する基礎情報を確認し、自己学習をする。 2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。 3. 主として全身麻酔で手術を受ける術前・術後の成人期にある人、若しくは障害コントロールを必要とする慢性期にある人を1名受け持つ。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち3日目を目安に、優先順位の高い予測した看護上の問題について看護診断を行う。 2. 対象の身体的苦痛を緩和するための援助を行う。 3. 対象の健康レベル、健康障害に応じた日常生活の援助を行う。 4. 対象の健康障害に応じた症状の改善、悪化防止、合併症予防の援助を行う。 5. 対象と家族のQOL向上に向けた援助を行う。 6. 実習最終日に、実習目標の到達度を評価し、実習のまとめを行う。 								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する</p>								

科目名	老年看護学実習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			実習			2	2年 1・2学期
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	井上末美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>老年期にある対象を総合的に理解し、老化と健康レベルに応じた看護が実践できる能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける老年期の身体的・社会的・心理的变化を理解し、老年看護の対象を理解できる。 2. 老年期にある対象の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の問題を考え、問題解決のための援助を理解し、実施できる。 3. 老年期にある対象の人生観を尊重し、QOLを考慮した援助ができる。 4. 保健医療チームの一員としての看護師の役割と責任が認識できる。 5. 看護学生としての責任と義務を果たす行動がとれる。 6. 自己の看護観を深めることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 養護老人ホーム（桜井壮、泉荘）、特別養護老人ホーム（唐子荘、日高荘） 愛媛県立今治病院（3西 病棟）</p> <p>実習期間 老人ホーム実習 2年次 1学期 3日間 病院実習 2年次 2学期 7日間 実習期間中に実習施設でオリエンテーションを受ける</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前、老年看護学に関する自己学習をする。 病院実習前、対象に関する基礎情報を確認し、自己学習をする。 2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。 3. 老人ホーム・病院で実習を行う。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人ホーム実習では、高齢者の生活機能レベルや生きがいを高めるための援助、安全・安楽を考慮したうえでの個々に適した援助を実施する。 2. 病院実習では、老年期にある患者を1名受け持ち、老年期の特徴を踏まえて看護過程を展開する。 3. 受け持ち3日目を目安に、優先順位の高い予測した看護上の問題について看護診断を行う。以後、長期目標と短期目標を設定し、看護計画を立案、対象の反応を観察しながら対象に日常生活援助を実施する。 							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する 2施設での評価点を加味して総合的に評価する</p>							

科目名	小児看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		実習		2	2年 1・2学期	
担当者	阿部 喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成長発達過程にある子どもと家族を社会の中で捉え、総合的に理解し、各健康段階に応じた看護が実践できる能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な子どもの成長発達過程と生活について理解できる。 2. 健康な子どもの日常生活援助について理解できる。 3. 健康障害をもつ子どもの成長発達過程と生活について理解できる。 4. 健康障害をもつ子どもの日常生活援助について理解できる。 5. 子どもを一人の人格をもつ存在として尊重し、子どもの権利を守る行動がとれる。 6. 看護学生としての責任と義務を果たす行動がとれる。 7. 自己の子ども観および小児看護観を育成できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 今治市認可保育所 愛媛県立今治病院（4西 病棟）</p> <p>実習期間 保育所実習 2年次 1学期 5日間（実習前に実習施設でオリエンテーションを受ける） 病院実習 2年次 2学期 7日間</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前、小児看護学に関する自己学習をする。 2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。 3. 保育所では、健康な乳幼児と関わり、発達段階に応じた日常生活援助を理解する。 4. 病院実習では、1名の患児を受け持ち、小児期の特徴を踏まえて看護過程を展開する。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習では、子どもの発達段階に応じたコミュニケーションや日常生活援助を実施する。 2. 病院実習では、受け持ち2日目を目安に、漢字と家族の状況に応じた看護上の問題について看護診断を行う。 以後、長期目標と短期目標を設定し、看護計画を立案、対象の反応を観察しながら対象に日常生活援助を実施する。 3. 小児各期の特徴を踏まえた診察の介助について学ぶ。 4. 実習最終日に、実習目標の到達度を評価し、実習のまとめを行う。 							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する 2施設での評価点を加味して総合的に評価する</p>							

科目名	母性看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	2年 1・2学期	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	眞木智美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>新しい家庭の誕生期にある人々の特徴を理解し、健康の保持増進のために必要な看護が実践できる能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に暮らす母子に必要な健康支援を理解することができる。 2. ライフサイクル各期における母性・父性の発達とそれを促す看護を理解できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過と母子関係ができる。 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族への看護の実際が理解できる。 5. 周産期にある母子とその家族の健康増進上での問題と課題を把握し、看護過程を展開できる。 6. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割が理解できる。 7. 生命を尊重し思いやりのある態度を身につけることができる。 8. 看護学生としての責任と義務を果たす行動がとれる。 9. 自己の健全な母性・父性観を芽生えさせることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 今治市中央保健センター 愛媛県立今治病院（4東 病棟）</p> <p>実習期間 保健センター実習 2年次 1学期 3日間 （実習前に実習施設でオリエンテーションを受ける） 病院実習 2年次 2学期 9日間（実践外活動2日間を含む）</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前、母性看護学実習に関する自己学習をする。 2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。 3. 保健センター・病院で実習を行う。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健センターでの実習では、センター内あるいは地域に赴いての活動の実習を行う。 2. 病院実習では、産褥期及び新生児を1名受け持つ。 産褥期・新生児期1～5日目のスタンダードな看護計画を事前に準備しておく。 3. 受け持ち2日目を目安に、優先順位の高い予測した看護上の問題について看護診断を行う。以後、長期目標と短期目標を設定し、看護計画を立案、対象の反応を観察しながら対象に応じた日常生活援助を実施する。 							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する 2施設での評価点を加味して総合的に評価する</p>							

科目名	精神看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		実習		2	2年 1学期	
担当者	長谷部亜希子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神科病棟および地域で生活する精神障害をもつ人々とその家族を理解し、対象に応じた看護を行うために必要な知識、技術、態度を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉法と入院環境の関連について理解できる。 2. 精神が障害された人の治療的環境について理解できる。 3. 精神が障害された人への各治療法について理解できる。 4. 受け持ち患者のセルフケア能力をアセスメントし看護過程の展開ができる。 5. 治療的かかわりを目的としたコミュニケーションについて理解できる。 6. 地域との連携について理解し、退院後の生活について考えられる。 7. 保健医療福祉チームにおける各職種の役割を理解するとともに、看護師の役割を理解できる。 8. 精神看護に対する自己の看護観を述べることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 正光会今治病院</p> <p>実習期間 2年次 1学期 12日間 実習期間中に実習施設でオリエンテーションを受ける</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前、対象に関する基礎情報を確認し、自己学習をする。 2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。 3. 対象を1名受け持ち、看護過程の展開を学ぶ。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち6日目を目安に、対象のセルフケア不足に対する援助計画の立案ができる。生活者としての精神障害者に対する理解を深め、日常生活援助を実施する。 2. 精神科病棟、地域で行われている保健医療福祉アプローチ（SST、作業療法、デイケア、訪問看護など）について知る。 3. 病院・地域における各種専門職と看護師の連携について知り、看護師のコーディネーション機能を理解する。 							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する</p>							